

- ・燃料別等自動車保有台数（平成23年4月末現在）

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/toukei/j_touroku/nenryoubetsu2304.pdf

《行政処分状況》

- ・自動車整備事業者の行政処分状況（平成23年5月20日付け）

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/jigyousya/seibi/seibi.htm>

☆分野別情報

《物流》

- ・グリーン物流パートナーシップ推進協議会（メールマガジン第46号）

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/kyusyu_green/index.html

《バス・タクシー・トラック》

- ・自家用有償運送に係る運転者講習を実施する者一覧（平成23年5月25日現在）

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/jidousya_k/file14/jika23_5_25.pdf

- ・特定地域における期間限定減車の取扱いについて

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/jidousya_k/file13/taxi30_2_1.pdf

- ・特定地域における期間限定減車の対象地域等について

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/jidousya_k/file13/taxi31_2_1.pdf

☆報道発表

- ・平成23年度観光地域づくりプラットフォーム支援事業の2次公募を行います

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/2011-0527-chiiki.pdf>

- ・保安監査の結果について（改善指示書発出）

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/2011-0530_tetudou.pdf

- ・九州への中国人旅行者の回復を図るために上海と北京において観光プロモーション活動を行います！

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/2011-0531_kokusai_3.pdf

- ・九州への韓国人旅行者の回復を図るために韓国SBS放送の制作スタッフを招聘します！

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/2011-0531_kokusai_2.pdf

- ・モータースポーツ観光に係るメディア招請事業を実施します！

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/2011-0531_kokusai_1.pdf

- ・ゴールデンウィークにおける高速バスの輸送実績

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/2011-0601_tabiiti.pdf

☆お知らせ

- ・平成23年度運行管理者等一般講習の開催について

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/osirase/files/2011-0530_hoan_1.pdf

- ・平成23年度運行管理者等基礎講習の開催について

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/osirase/files/2011-0530_hoan_2.pdf

・平成23年度における事故防止対策支援推進事業（社内安全教育の実施に対する支援）の申請受付を終了しました。（平成23年6月1日）

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/osirase/file001_022/2011-0601-hoan.htm



2 現場レポート



▼▼全国唯一のサバイバルトレーニングセンターを見学しました！▼▼

日本の排他的経済水域（EEZ）内の海洋資源開発は、資源の少ない我が国において非常に重要で、国の方針として進められています。

また、尖閣諸島や竹島問題など、陸地での国境がない我が国においても領土問題が存在しています。

これらの資源開発など海洋で働く大切な人材のサバイバルスキルを高め、また育成することを目的とした民間としては全国初の「サバイバルトレーニングセンター」が北九州市戸畑区のニッサイマリン工業（株）内に、この4月に誕生しました。

このような訓練施設は、映画の「海猿」で知られているように、海上保安庁や自衛隊など国の機関にはすでに設置されていますが、人命救助や有事の際の訓練施設としてのものであるため、民間には開放されていません。

グローバルに運用される船舶や海洋資源開発に携わるためには「国際認証訓練施設」（OPITO 認証）での訓練受講を要求されることが多く、今までは海外の施設で訓練を受けて OPITO 認証を取得する必要がありました。

当事務所では、先日、本施設を見学させていただく機会を得ましたので、訓練の一部をご紹介します。

まず、救命艇設備では、ワイヤーでつり下げる「ダビット式」と滑り台から滑り落ちる「フリーフォール式」の2種類の救命いかだの投下訓練が行われました。

フリーフォール式では、実際に施設の教官の方が乗船して、5m程の高さから海面への投下が行われました。実際の船舶では10m以上の高さから投下されることもあるとのこと。

また、深さ5mの水槽での訓練では、海中に沈んだヘリコプターから脱出する訓練を行っていました。ヘリコプター水中脱出訓練用模型を使い、インストラクターの指導により訓練生が、水中に沈んだ模型の中で、窓枠についている安全ピンを抜き、窓から脱出し水面に浮かび上がるまでを訓練するというものです。

さらに、消火訓練施設では、ヘリコプターの消火訓練を行う消火訓練用ヘリデッキや高所脱出訓練デッキ、暗闇の中で煙に巻かれても確実に脱出する訓練設備など多岐にわたる施設が備わっていました。

これら一連の訓練を、実際に海洋調査を行う船舶の乗組員や調査員の方々等が受講することとなります。

日本で初めての民間による訓練施設ということで、今後の円滑なE E Z開発等に役立つことが期待されます。

※当日見学した訓練の様様については、次のURLからご覧になれます。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_126_4.pdf

(福岡運輸支局若松海事事務所)

▼▼別府・阪神航路開設 100 周年記念セレモニーの開催▼▼

5月28日、別府市の国際観光港で別府・阪神航路開設100周年の記念セレモニーが開催されました。当日は、台風2号の影響であいにくの雨模様でしたが、関係者約120名の出席により盛大に執り行われました。

当時、別府の観光地としての将来性に目をつけた大阪商船（商船三井の前身）が、別府・阪神航路を開設、ドイツから購入した「くれない丸」（1400トン）を大阪港から出港させたのが1912年5月28日で、この日からちょうど100年目にあたるものです。

式典は、100周年記念事業実行委員会の上月会長の挨拶から始まり、現在同航路を運航する「フェリーさんふらわあ」の興村社長等の挨拶の後、浜田別府市長、広瀬大分県知事、安部大分支局長の祝辞が述べられました。

また、阪神側発着地の大阪市浪速区の浅野区長も駆けつけ、浜田別府市長と互いの観光振興を誓い合い握手を交わしました。

式典終了後、無料招待された別府市民約500名が、フェリー「さんふらわあ あいぼり」（9245トン）に乗り込み約2時間半の別府周遊クルーズを楽しみました。

乗客は、雨にけむる穏やかな別府湾を眺めながら、船内では、別府、大阪両市で活躍する「ゆるキャラ」の交流ステージなどの催しもあり、船旅を満喫しているようでした。

なお、今回、別府市旅館ホテル組合連合会も100周年を迎えるということで、フェリーとタイアップしたキャンペーンが今後実施されます。

油屋熊八翁により別府観光の礎が築かれて以来、別府温泉は日本一の源泉数・湧出量で全国にその名が知れ渡りました。フェリーの利用客も年々増加し、シーズン中は大阪からの修学旅行や新婚旅行客で溢れかえり、大阪万博のあった昭和45年には、ピークの232万人に達しました。

しかし、その後山陽新幹線の開通や高速道路網の整備などで航路の利用客は減少に転じており、昨年の別府～大阪間の利用者は23万人でした。

この100周年を契機に、実行委員会は昼便の運航を試験的に復活させる（10月8日、11月5日）など、フェリーと別府観光の更なる飛躍を図っているところです。

※記念セレモニーの様子は、次のURLからご覧になれます。
http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_126_5.pdf

(大分運輸支局)



3 国土交通省からのお知らせ情報



○「運輸安全マネジメントセミナー」の開催(23年7月)

国土交通省では、運輸事業者を対象に、運輸安全マネジメント制度の理解を深めるための「公開セミナー」を定期的で開催しています。国土交通本省での7月開催分について、6月1日(水)午前10時より受付を開始しています。詳細はホームページにてお知らせしていますのでご確認のうえ、お申し込みください。

■ http://www.mlit.go.jp/unyuanzen/unyuanzen_seminar.html

○広報誌「国土交通」6・7月号発行

日本には、子ども達の声が響く小さな公園から、環境省が管理する国立・国定公園などさまざまな公園があります。このうち、国土交通省が担当している「都市公園」と呼ばれる公園は、全国に9万8千カ所。

「公園」はベビーカーの赤ちゃんから、お年寄りまであらゆる世代に憩いや安らぎを与える場として整備しており、それ以外にも普段は気づかれないようにプランニングされた多彩な役割があります。

例えば、毎年5月22日は国際生物多様性の日。国連は2011-2020年を生物多様性の10年と位置付けて人類を含めた多くの生物にとって命の源である「生物多様性」の保全を進めていますが、公園整備事業の中でも「いのちの共生を未来へ引き継ぐ取り組み」を行っています。

特集では、「人と生物を惹きつける公園の魅力」と題し、それぞれの土地の自然や景観、文化を活かした幅広く奥深い公園の魅力をご紹介します。

公園に隠された壮大な秘密をお楽しみください。

■広報誌「国土交通」6・7月号

http://www.mlit.go.jp/page/kanbo01_hy_001529.html

※この欄の記事は、平成23年5月31日付け国土交通省メールマガジン第652号に掲載された内容をもとに作成しています。



【編集部より】

編集部では、運輸と観光行政に関する取組や話題、イベントの案内等、地域の情報を募集しています。お気軽にお寄せください。

九州運輸局メールマガジン編集部(九州運輸局総務部内)

mail : mm-kyushu@qst.mlit.go.jp

Tel : 092-472-2312 Fax : 092-471-7192



